

令和6年度 第1回古河・坂東地域医療構想調整会議 会議録

1 開催日時 令和6年6月25日（火） 午後6時30分から午後7時30分まで

2 実施場所 茨城県古河保健所 大会議室及びWeb

3 出席者 別添「出席者名簿」のとおり

4 議事

(1) 定足数の確認

事務局（古河保健所地域保健推進室長 外山）は、古河・坂東地域医療構想調整会議について、委員総数23名全員が出席であること確認し、地域医療構想調整会議設置要綱（以下「要綱」という。）第7条2項に基定する定足数に達したことを宣した。

(2) 委員の紹介

異動に伴い新たに上杉委員、関根委員が委員に就いたことを報告した。また、関根委員、許斐委員、橋本委員、針谷委員、木根淵委員については、代理の方が出席していることを報告した。

(3) 議長の選任

要綱7条第1項の規定により、秋葉会長が議長に就いた。

(4) 会議録署名人の指名

議長は要綱第10条第1項の規定に基づく会議録署名人に、宇田委員及び小柳委員を指名した。

(5) 議事

議長は、事務局に次の事項の説明を求め、事務局は会議資料に基づき説明を行い、質疑応答及び意見交換が行われた。要旨は別紙のとおり。

○協議事項

(1) 令和6年度医師派遣の調整に係る医師派遣要望調査について

説明に基づき質疑応答及び意見交換が行われ、令和6年度医師派遣要望（案）については、原案のとおり要望することで承認された。

○報告事項

(1) 有床診療所の病床廃止について

(2) 病床機能集計結果及び医療機能の拠点化・集約化に向けた今後の方向性について

(3) 地域医療構想の今後の進め方について

以上をもって、すべての議事が終了したことを議長が宣言し、閉会となった。

上記を確認するため、会議録を作成し、会議録署名人が署名する。

会長 秋葉 和哉

会議録署名委員 小柳 順時

会議録署名委員 宇田 和夫

令和6年度第1回古河・坂東地域医療構想調整会議出席者名簿

○委員

区分	委 員 氏 名	役 職	備考
医療関係団体	秋葉 和 敬	古河市医師会長	会議室出席
	芝田 佳三	猿島郡医師会長	オンライン参加
	許斐 康司	きぬ医師会坂東支部長	代理 許斐 奈美 高橋医院副院長 オンライン参加
	歯科医師会 橋本 正一	茨城西南歯科医師会長	代理 小野寺 鏡子 副会長 会議室出席
	薬剤師会 宇田 和夫	古河薬剤師会副会長	会議室出席
	看護協会 佐伯 久美	茨城県看護協会古河坂東地区理事	オンライン参加
病院協会	木村 修	猿島厚生病院長	会議室出席
保険者	山本 賢一	全国健康保険協会 茨城支部 保健グループ長	オンライン参加
福祉関係団体	塚田 晴夫	古河市社会福祉協議会会长	会議室出席
介護事業者	小柳 賢時	医療法人慈生会理事長	会議室出席
住民代表	森川 玲子	古河くらしの会長	会議室出席
市町村	針谷 力	古河市長	代理 笠島 幸子 健康推進部長 会議室出席
保健所	大谷 幹伸	茨城県古河保健所長	会議室出席
基幹病院等	岩下 清志	総和中央病院長	オンライン参加
	上杉 雅文	茨城西南医療センター病院長	会議室出席
	加藤 福一	友愛記念病院長	オンライン参加
	木根淵 光夫	木根淵外科胃腸科病院長	代理 稲田 司 事務長 会議室出席
	小山 信一郎	古河赤十字病院長	会議室出席
	靄見 有史	つるみ脳神経病院長	オンライン参加
	船橋 宏幸	船橋レディスクリニック院長	オンライン参加
	門間 英二	古河総合病院長	オンライン参加
	吉田 正	ホスピタル坂東院長	オンライン参加
学識経験者	消防 関根 孝之	茨城西南地方広域市町村圏事務組合 消防本部消防長	代理 富田 努 救急課長 オンライン参加

○事務局

茨城県古河保健所	石井 晴海	次長兼総務課長
茨城県古河保健所	外山 隆	地域保健推進室長
茨城県古河保健所	坂入 康介	地域保健推進室主事
茨城県古河保健所	川崎 琴音	地域保健推進室技師

令和6年度 第1回古河・坂東地域医療構想調整会議 質疑応答要旨

○協議事項

(1) 令和6年度医師派遣の調整に係る医師派遣要望調査について

秋葉議長 事務局から説明があったが、何かご質問等はありますか。

加藤委員 補正の0.5人とはどういう意味か。

事務局 複数医療圏をカバーしている、茨城西南医療センター病院の救急、小児救急、つるみ脳神経病院の脳卒中分野については、1人の要望を0.5人としてカウントすることができる。今回、8人の要望があるが補正により5人の枠に収まった。要望する上での技術的なものであり、決して0.5人の派遣を要望するというものではない。

秋葉議長 昨年度、初めてこの医療圏において派遣が認められたが、その茨城西南医療センター病院とつるみ脳神経病院では、現在、派遣された医師が働いているのか。

靄見委員 つるみ脳神経病院では今年の10月から、脳神経外科の常勤の医師が半年間、筑波大学から派遣されることが決まっている。

上杉委員 西南医療センターでは呼吸器内科と小児科の先生に勤務していただいている。

靄見委員 地域医療構想調整会議委員の皆様のおかげで10月から常勤での派遣が可能となり、大変感謝している。引き続き派遣を継続してもらえるよう努力し、古河・坂東医療圏の力になれるよう頑張る所存である。

秋葉議長 今回の派遣は1年間のもので、来年度になると筑波大学に戻ってしまうのか。

靄見委員 当院の場合、半年間で、3月には戻ってしまう予定である。

上杉委員 同様に3月までである。

秋葉議長 初めて派遣頂いた人材、枠に関しては、今後も同様の要望を続ける必要があるのではないかと思う。

小山委員 古河赤十字病院では今年、派遣要望はしなかった。以前要望書を提出した際に、筑波大学でのヒアリング時に、そちらは自治医大から来ているからいいですよねと断られた。それからは要望していない。

門間委員 古河総合病院では今回、循環器内科の派遣を要望した。非常勤医に頼っている部分がほとんどの状況。心疾患についてのケースがかなり多く、県外流出を減らすためにも派遣を要望した。

加藤委員 友愛記念病院の政策医療の重点分野は、がんであることから、乳腺外科を要望した。常勤医2名が年間100例ほど対応しているが、高齢となってきていることから、戦力アップのため今回要望した。

秋葉議長 他にご意見ご質問がなければ原案のとおり要望することとしてよろしいか。

— 異議なく承認 —

○報告事項

- (1) 有床診療所の病床廃止について
- (2) 病床機能集計結果及び医療機能の拠点化・集約化に向けた今後の方向性について
- (3) 地域医療構想の今後の進め方について

— 質疑応答無し —

秋葉議長 他に何かご意見等はありますか。

森川委員 患者の立場からだが、先生がなかなか確保できないのか、担当の先生が変わってしまうことがよくあり、医療体制が不安になる。医師の働き方改革などが影響しているのか。先生の数が少ないということか。

秋葉議長 当医療圏が医師不足地域となっていることが一番の原因。県はお金をかけて修学生を出しているのだからもっと少数区域に医師を派遣していただく必要があると考える。

大谷委員 この派遣の制度ができて、昨年度やっと派遣要望が叶った。まだスタートの時点であり、将来的に派遣が続くよう期待したい。

小山委員 どこの病院でも医師の交代は起こる。これまで循環していたが働き方改革により大学からの派遣が減らされている、滞っていると感じている。また、医師の偏在がある。東京に偏っていて改善されない。毎年9,000人ほど新しく医師になるが内科、外科は減っている。医師の減っている診療科が増えている。なかなか医師の確保が難しい中、働き方改革が進むと2次救急が維持できるかと危惧している。さらにこの地域は医師の少ない地域でもあり、いろいろな問題がさらに大きくなるかもしれないを感じている。そうならないためにも、大学からの派遣を継続してもらえるようお願いしている。そういう状況のなか、先生が変わってしまう、高齢でやめてしまうということは、ある程度やむを得ないと思っていただくしかない。

加藤委員 大学からのローテーションは水物で、大学の医局の人数が減ると、病院への派遣も減ってしまう。働き方改革により医師一人当たりの労働時間が決められているので、それに従いやるしかない。夜間に緊急手術を行うこともあるが、それにより翌日の昼間の外来に対応できることになる。それが国の制度なので、一般の方にもご理解いただきたいと思う。

小野寺氏 先生方に無理な労働を強要することはできないし、いろいろなルールがあると思う。今後高齢者が増えていく中で、医師を増やすために、国に抜本的な改革をお願いするような会議ができないものかと感じた。